

NEWS



陸協ひろしまニュース
財団法人 広島陸上競技協会

第61号

日本記録へあくなき挑戦

山口智子



陸上人

女子円盤投げ

FILE002

山口 智子

呉市体育振興財団

Tomoko Yamaguchi

日本記録へ — あくなき挑戦

プロフィール | 山口 智子(やまぐち・ともこ)
1972年2月14日 呉市生まれ/170cm/70kg/昭和中一呉昭和高一鹿屋体育大/呉市体育振興財団(Team BIGSTONE)

主な成績 | 1989年・県高校総体1位/1993年・日本インカレ2位/1996年・日本選手権8位/1997年・日本選手権3位、全日本実業団選手権2位/1999年・日本選手権3位、全日本実業団選手権3位/2000年・全日本実業団選手権2位/2001年・全日本実業団選手権1位、国体3位/2002年・全日本実業団選手権1位/2003年・日本選手権2位、全日本実業団選手権2位、アジア選手権6位/2004年・日本選手権2位、全日本実業団選手権3位/2005年・日本選手権3位、全日本実業団選手権1位/2006年・日本選手権2位、全日本実業団選手権3位/2007年・日本選手権5位、全日本実業団選手権3位



投げで最初に17mを超えた。川崎さんが1979年に投げた男子円盤投げの60m22は今も日本記録として輝きを放つ。

「姉のような山中先生にはマンツーマンで見えていただき、基本を教わった。大学の瓜田先生には自分で考えることの大切さを学んだ。川崎さんの言葉は新鮮に響いた。高い目標設定ができ、モチベーションも高まった。やはり、偉大な記録を持つ人の感覚は違った。依存心の高かった私もしっかりと受け止められるようになった。考えてみれば、3人とも日本記録を打ち立てた人たち。だから、私も日本記録を出すまでは競技をやめられない」

*

負の歯車が動き出す

2005年はチャンスだった。10月の実業団・学生対抗(平塚)で自己ベストの55m17が出た。当時の日本記録は室伏由佳(ミズノ)の56m84。その差1m67cmに迫っていた。日本新記録への意欲を一層かきたてた。しかし、室伏は2007年、58m62へと引き上げた。かすかな希望はまた遠のいた。このシーズン、かつてないスランプに陥り、焦りは増した。

「昨年はこれまでにない、しんどいシーズンだった。初めてけがで練習が継続できなかった。右足首を3月にねんざ、歩けず、走れなかった。5月には左ふくらはぎの下を肉離れ。負の歯車が回転したようで、あちこちが痛くなった。思うような投ぎもできず、記録も伸びなかった」

*

このままでは引き下がれない

ひそかに8月の大阪世界選手権代表を狙っていた。日本選手権で勝てばチャンスはあった。

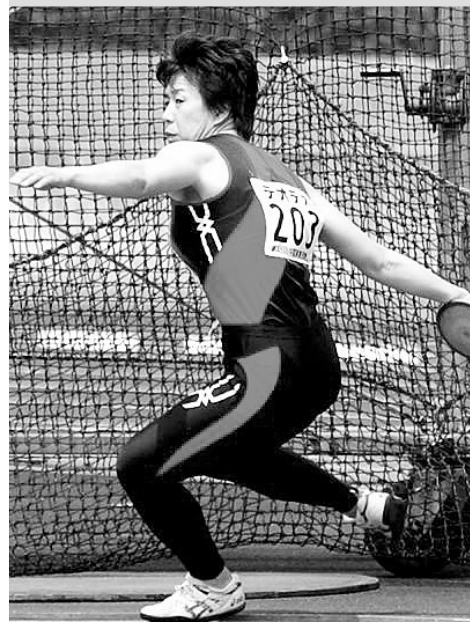
しかし、5位と惨敗した。ライバル室伏が出た世界選手権はテレビの中継も観なかった。結局、昨季のベストは51m01、日本ランキングは3位に後退した。2位は三次市出身の敷本愛(国士大教)、1歳年下のかつての練習パートナーだった。

「シーズン中、抜かれることはある程度予感していた。やっぱり悔しい。でも、逆に闘志がわいてきた。勝ちたい、負けたくないって。若い選手の追い上げは励みになる。だけど、私もこのままでは引き下がれない。守りに入らず、次の試合では負けない」

*

常に一人、でも孤独ではない

勤務は呉市体育館で体操教室や事務を執る。合間を見つけてトレーニングに励む。常に一人。アドバイスしてくれる人はいない。しかし、孤独ではない。県内在住のベテラン投ぎ仲間「TEAM BIGSTONE」を結成し登録した。試合では仲良く批評しあう。京都で活動している横山幸代(シスメックス)の誘いで、月に一度は京都に向向き一緒に練習する。気分転換と新たな刺激を得ているのだ。3度目の年女で迎える2008年シーズンに新たな誓いを立てた。残された時間は多くない。



「狙った試合で弱い性格が災いして、まだ一度も勝ったことのない日本選手権で勝ちたい。最終的な目標はあくまでも日本記録。新記録を出せたら、その日に(競技を)やめてもいい」

*

中学ではバレーボールに親しみ、高校では迷うことなく陸上へ。2003年には日本代表としてアジア選手権も経験した。「あの感激は忘れられない」。長い競技生活の集大成の時期が迫った。(敬称略) (W)

記録への挑戦がスタートする

高校入学と同時に円盤を手にして、競技生活は20年を超えた。ここまで、華やかなスポットを浴びることは少なかった。遅咲きのスローワー。しかし、この12年間、常に日本ランキング上位の一角を占め続け、日本歴代4位(55m17)にいる。見渡せば、自分より年長の女性アスリートはほとんどいない。競技会では36歳の現実に直面する。それでも円盤を離しはしない。間もなく、22年目のシーズンが始まる。記録への挑戦がスタートする。視線は「日本記録」のただ一点を見つめている。

*

これまで3人に指導を仰いだ。高校では山中(現姓原野)みどり(現安芸南高教)、大学は瓜田吉久(鹿屋体育大教)、社会人の一時期は川崎清貴(現オーストラリア在)だ。恩師たちは期せずして日本記録ホルダーだった。山中さんは筑波大の1980年、女子円盤投げ51m82をマーク、瓜田さんは1982年に男子砲丸

彼女と出会ってもう20年が過ぎようとしている。いろいろ悩むことはあってもそれを次の原動力に変えてしまう人柄だ。いつもの口癖、『そうですよね。』といいながらポジティブに明るく頑張れる。そんな性格は、今もかわらない。1988年4月、県立呉昭和高校5期生として入学してきた。中学時代はバレーボール部で陸上競技は初心者であった。本人はいつも跳躍種目をやりたかったらしいが、私には全くその気はなく、見たとたん円盤を投げさせると決めていた。その素質はすばらしく、待ちに待った選手がきてくれたという気持ちが出て、とてもうれしかった。しかし、当時陸上部は60人の大所帯。本人は無理矢理円盤を持たされ、一方的にやらされたという思いが強かったのではないかな。それでもやっとインターハイ選手が育つ環境が整ってきた中、何とか彼女に全国レベルを目指す意欲を持ってもら

うと、躍起になったのは私ばかり…。3年生でインターハイに『出場』。それが彼女の高校時代の成績である。しっかりした指導をしていけば、もっとすばらしい成績を上げたのは間違いない。大きなつぼみをこのまま咲かせずに終わらせたくなかった。鹿屋体育大学の瓜田先生のもとへ彼女が進学できたことは、何よりも今の活躍の原動力となっている。長年、競技を続けるのは並大抵の精神力ではないし、体力の維持向上も難しくなっている。にもかかわらず、今も日本の第一線で活躍し続けていることに心から尊敬の念を抱くとともに、羨ましくさへ思う。

『大器晩成』とは彼女のことである。今年是北京オリンピックの年である。日本記録を出して是非オリンピックへ出場してほしい。

安芸南高校 教諭 原野 みど里

全国二連覇を目指して

優勝した前大会後から、全国二連覇を目標に掲げ、日々の練習を取り組んできました。

駅伝においては、選手自身がレースを組み立て、展開をしていかなければならないため、普段の生活から自己管理と自主性が身に付くよう取り組んできました。朝練習においては、それぞれが各自のペースで真剣にジョグを行ったり、普段の生活においては小さなことを疎かにせず、当たり前前のことが当たり前できるように日々過ごしてきました。

結果だけを見ると準優勝ということで目標達成はなりませんでしたが、最後まで精一杯頑張ってくれました。

後輩たちも全国大会を身近に肌で感じ、全国大会に出場し、全国の選手と勝負したいという思いが強くなってきました。

この思いを糧に次回も出場できるよう新メンバーで更に精進を重ねていきます。

最後に、広島陸上競技協会を始めとする多くの方々のご支援・ご声援に感謝します。

東広島市立八本松中学校陸上部 顧問 植田 康之

震えるような緊張感

私たち八本松中学校陸上部長距離は、昨年12月に開催された第15回全国中学校駅伝大会で準優勝することができました。一昨年の第十四回大会では、先輩たちが優勝したということもあり、全国二連覇をめざし、チーム一丸となって日々の練習を一生懸命がんばってきました。

そして、つい12月15日をむかえました。準優勝することはできましたが、一年間めざしてきた全国二連覇を成し遂げることができず、とても悔しい思いをしました。しかし、全国大会の難しさや震えるような緊張感を体験できたことは、素晴らしいことだと思います。

これから私たちは、高校に進学しても陸上を続け、自己の潜在能力の可能性を信じ、努力していきたいと思えます。

私たちは、全国中学校駅伝大会に出場できたことで、目標に向かって努力する大切さを知ることができました。陸上部長距離 主将 井上 侑也

男子の部

優勝を目指して

昨年度、中国中学駅伝で敗退してから1年間、部の合い言葉「俺達にだってできる」のもと、3段階の具体目標（中国駅伝優勝・全国駅伝入賞・全国駅伝優勝～そして心から応援をいただけるチーム・個人になる）をたてて取り組んできました。

目標に向けての生徒達の努力は、私の想像をはるかに超えるものでした。練習や試合はもとより、体調管理や食事、生活面、マナー、学習に至るまで、一切の妥協なく心と体を鍛えてきました。私自身、生徒達を指導するなかで心から勝たせてやりたいと思わずにはいられませんでした。残念ながら、第一目標の達成はなりませんでしたが、生徒達は、勝っても負けても心から応援をいただけるチーム・個人に成長したと思っています。

応援をいただいた地域、教職員、保護者、卒業生、前任校向丘中の関係者、ご指導をいただいた先生方、すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

皆様からいただいた心からの応援は生徒達にとって一生の宝物になると思います。今後も生徒達と、夢と感動のある活動を続けていこうと思います。

福山市立一ツ橋中学校陸上部 顧問 山本 浩司



俺達にだってできる

第一目標にしていた「全国駅伝優勝」は果たすことはできませんでしたが、まわりの方々のご支援や熱い応援が後押しして下さって、チーム全員で気持ちよく走りきることができました。結果は6位入賞で第2目標であった「全国駅伝入賞」を達成することができました。悔しい思いも残っていますが、先生のご指導と皆様の暖かい応援は「日本一」だったので今までにない感動を味わうことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

この1年間、「俺達にだってできる」を合い言葉に心から応援していただけるチーム作りを取り組みました。部活だけでなく、生活面・学習面も全員で最後まであきらめず努力したので充実した中学校生活を送る事ができました。

この貴重な経験と感謝の気持ちを忘れず、今後に生かしていこうと思います。

陸上部長距離 主将 赤松 弘佳

女子の部

ニューイヤー駅伝情報!!

1月1日初春の風物詩、駅伝日本一をかけて第52回全日本実業団駅伝は、群馬県庁を発着点とするコースに7区間100Kmで、全国の予選会を勝ち抜いた強豪37チームが競い広島実業団からは、中国電力・JFEスチール・マツダ・中電工の4チームが出場しました。

序盤は、JFEスチール1区のジョセフ・ギタウ選手区間2位の好走により2区途中まで上位進出し、中盤以降は昨年覇者の中国電力が、4区梅木蔵雄選手・5区佐藤敦之選手の連続区間賞により、2位をキープしてゴールしました。

◎県勢の成績

2位	中国電力	4時間49分55秒
20位	JFEスチール	4時間56分26秒
23位	マツダ	4時間57分42秒
31位	中電工	5時間00分10秒

北京五輪へ — 佐藤 尾方

8月の北京五輪マラソン男子の日本代表に、中国電力の佐藤敦之、尾方剛両選手が決まった。3月10日の日本陸連理事会で正式決定した。中電勢の五輪マラソン出場は、2004年アテネ大会5位の油谷繁に続いて2大会連続である。「日の丸」を胸に付けた両選手が、炎天下の北京の街を疾駆する。

佐藤選手は昨年12月3日、福岡国際マラソンで円熟した走りを披露した。10度目のマラソン挑戦。2005年以降は低迷が続いた。07年の別大は2時間11分18秒で2位。五輪選考会の福岡では期すものがあつた。

10月の世界ロード選手権（ハーフ）で1時間2分25秒の日本記録をマーク。そのままの好調を維持していた。福岡のレースでは従来の力みは消え、肩の力が抜けた伸びやかなフォームで駆け抜けた。

日本選手が相次いで脱落する中、18kmからのペースアップにも柔軟に対応した。前回、アテネ五輪5位の僚友、油谷繁（中国電力）も後方へ。33kmすぎでは佐藤が一步前進した。ワンジル（トヨタ自動車九州）、メルガ（エチオピア）のアフリカ勢にこそ先着を許したが2時間7分13秒、日本歴代4位の記録で日本選手トップの3位ゴール。マラソンの極意をつかんだ。好タイムで北京への切符を手繰り寄せたのだった。

尾方選手はじっと代表選考会の推移を見守っていた。自身は2007年8月の大阪世界陸上で5位入賞。暑さの中で粘りが光った。タイムこそ2時間17分42秒を要したが、記録は問題ではなかった。シャミ（カタール）、ロスリン（エリトリア）ら強豪と渡り合ったレースは特筆されるべきものだった。

大阪以後、福岡国際、東京（2月）、びわ湖毎日（3月）と選考レースが続いた。しかし、動じることはなかった。そして、「切符」は当然のように尾方に届いた。それほど価値ある大阪での健闘だった。

「（五輪には）出るだけじゃあ駄目だ。メダルを取りたい」。尾方は強くそう願う。学生時代から社会人にかけてスランプに悩み、はい上がってきた雑草のような強さが言わせる言葉。「39歳まで走る」と言うマラソンランナーは、オリンピックさえ通過点にする気構えだ。

北京の号砲は、五輪最終日の8月24日午前8時半（日本時間）。中電勢の挑戦に日本中の耳目が集まる。

(W)



佐藤 敦之 (さと・あつし)

1978年5月8日、福島県生まれ。170cm、55kg。会津若松中一会津高一早稲田大。2001年中国電力入社。

92年全国日本中学選手権2年1500mで優勝、95、96年の全国高校選手権5000mでともに5位。早大時代の2000年、びわ湖毎日マラソンで4位、2時間9分50秒の日本学生記録を樹立した。03年パリ世界選手権男子マラソン10位。妻美保さんは800m日本記録保持者。



尾方 剛 (おがた・つよし)

1974年5月11日、呉市生まれ。165cm、50kg。熊野中一熊野高一山梨学院大。1996年中国電力入社。

1991年石川国体少年男子A10000mで2位、94年箱根駅伝10区区間賞、山梨学院大の優勝アンカーとなる。だが、故障に苦しみ、2001年ベルリン4位、02年福岡国際2位となりマラソンの地歩を固める。03年パリ世界選手権は12位に終わるが、04年の福岡国際で優勝を飾った。05年ヘルシンキ世界選手権では銅メダルを獲得。07年、3大会連続出場した大阪世界選手権で5位入賞した。

◎マラソン全成績

2000年 3月	びわ湖毎日	2時間9分50秒 (4位)
2001年12月	福岡国際	2時間14分41秒 (11位)
2003年 3月	びわ湖毎日	2時間8分50秒 (5位)
2003年 8月	パリ世界選手権	2時間10分38秒 (10位)
2004年 3月	びわ湖毎日	2時間8分36秒 (4位)
2005年10月	シカゴ	2時間19分44秒 (16位)
2006年 3月	びわ湖毎日	途中棄権
2007年 2月	別府大分	2時間11分16秒 (2位)
2007年12月	福岡国際	2時間7分13秒 (3位)

◎マラソン全成績

1999年12月	福岡国際	2時間15分22秒 (24位)
2000年 4月	ロッテルダム	2時間11分43秒 (16位)
2001年 2月	東京国際	途中棄権
2001年 9月	ベルリン	2時間10分6秒 (4位)
2002年 4月	ロンドン	2時間25分3秒 (34位)
2002年12月	福岡国際	2時間9分15秒 (2位)
2003年 8月	パリ世界選手権	2時間10分39秒 (12位)
2003年12月	福岡国際	2時間8分37秒 (6位)
2004年12月	福岡国際	2時間9分10秒 (優勝)
2005年 8月	ヘルシンキ世界選手権	2時間11分16秒 (3位)
2006年 4月	ロンドン	2時間19分17秒 (26位)
2006年12月	福岡国際	2時間10分48秒 (6位)
2007年 8月	大阪世界選手権	2時間17分42秒 (5位)

2009年
広島開催



第93回日本陸上競技選手権大会

Time Another Report

年代別レポート

小体連

授業などで子ども達に「今日は持久走をするよ」と言うと「エーッ!」とか「ウーッ!」となり、たすきを持って「今日は駅伝をしよう」と言うのと「ヤッター!」となる。苦手な持久走も駅伝など、ゲームにすると頑張っていることができる。そんな小学生が参加できる駅伝の大会が県内各地で開催されている。中でも広島ビッグアーチを中心に行われる「オタフクカップ広島市小学生駅伝大会」は、今年で20回目になる。496チーム、2602名の5、6年生が参加して行われた。上位を目指して走るチーム、仲良く楽しんで走るチームなど様々だった。このように多くの子ども達が走る喜びや楽しさを体験し、将来ランナーを目指してほしいものである。

上安小学校 河田 慎司

中体連

12月24日～27日の2泊3日で県中体連新人強化事業として山口セミナーパークで1・2年生長距離の合宿を行いました。全国中学校駅伝の会場でもあり、選手自身もそこは意識しているようです。また、レベルの高い選手をまとめることで質の高い練習ができ、選手自身も互いに良い意味での刺激を受けていました。また、中高校生のジュニア合宿を1月4日～6日と2月22日～24日に2泊3日の日程で2回行いました。2月の合宿では福岡大学の400mHの山崎一彦先生を招いて指導していただきました。選手達は競技はもちろんのこと、挨拶や準備、片づけなど競技以外の部分でも意欲的なうごきができるようになりました。競技に対する心構えの違いが生活

態度に表れ、きつと競技にも反映されることと思えます。

どちらも寒い時期の合宿ではありますが、選手・指導者とも来年度に向けて熱心に取り組んでいただき感謝いたしております。

中広中学校 田川 司

高体連

中長距離ランナーにオフはない。今回は2007年度高校長距離界で活躍した広島井口高校の二人の田村;瞳(ヒトミ)と紀薫(トシカ)を紹介しよう。性は同じだが、姉妹ではない。瞳(1年)は海田中学校出身、紀薫(2年)は五日市中学出身。2人とも2007年度佐賀インターハイに出場。本年度県高校新人陸上では、800mで瞳、1500mと3000mで紀薫が優勝。共に秋田国体へ広島県選手代表として出場した。県高校駅伝では、1区で紀薫、2区で瞳がそれぞれ区間賞をとった。全国都道府県女子駅伝の広島県チームにも選ばれタスキをつないだ。慶楽監督のもと更に進化し続けており、2008年度も大いに活躍が期待される。

平素より、2人はよきチームメイトでありライバルである。瞳いわく「紀薫先輩は、弱音を吐かずに毎日こつこつ練習をしておられ、尊敬できる先輩です。」紀薫いわく「瞳ちゃんには妹みたいにかわいいです。ぴったり後ろについてくるので気が抜けません。」二人の本年度の大きな目標は『井口高校駅伝チームで京都に行くこと』だそう。

井口高校 松崎 親男

学生連盟

今期広島県学連幹事長を務めさせて頂く、古川綾乃と申します。今年も昨年と同様に記録会だけでなく、中国四国学生陸上選手権という大規模大会運営にも携わることとなりました。幹事長の立場で運営にかかわることは、大きな責任を伴うことであり、同時にとても貴重な体験が出来るという



ことだと思います。そのような経験ができる期待と共に不安も多々ありますが、県学連が今以上に盛り上がるように精一杯努めさせて頂きたいと思っています。よろしくお願い致します。

広島修道大学 古川 綾乃

実業団連盟

○初マラソンの選手に好成績続出!

2月3日・第57回別府大分毎日マラソン大会において、中電工の竹安昌彦選手が2時間14分18秒の4位。2月24日・第46回延岡西日本マラソン大会においては、中電工の左達 恵選手が2時間17分26秒の7位。3月2日・第63回びわ湖毎日マラソン大会では、中国電力の新井広憲選手が2時間13分4秒の12位。マツダの増田陽一選手が2時間15分23秒の14位。いずれの選手も初マラソンで好成績を挙げる事ができました。

○北京五輪男子マラソン代表に

中国電力より2名選出!

3月10日の日本陸連理事会、評議員会で世界陸上選手権大阪大会5位入賞の尾方選手、福岡国際マラソン2時間7分13秒で3位(日本人1位)の佐藤選手が選出されました。

中国電力 川久保 謙一

マスターズ連盟

スポーツは人生を豊にする!その言葉通りに「競い合うスポーツ」に「楽しさ」が加わったのが生涯スポーツ「マスターズ陸上」の目指しているところ。ここには、支えて頂いた役員、審判等スタッフの皆さんへ感謝の心がバックボーンと成っています。

今年も、多くの人が新たな目標を抱え新しいシーズンを迎えるようとしています。マスターズ陸上の大会では、競技者として目標達成にむけて頑張っています。そして多くの会員が普段は大会スタッフとして各競技場で裏方を務めたり地域スポーツの普及に励んでいます。

新年度も「マスターズ陸上」をどうかよろしくお願ひします。

お問合せは 事務局082-874-4522 岩本

アスリートのための食トレーニング

競技でよい成績を残すために、トレーニングだけではなく、食事にも気を付けようと思えますが、具体的にどうすればよいかわかりません。簡単に実践できる食事法を教えてください。

トップアスリートを目指すための栄養のとり方には、大事なポイントがあります。それは、『5つの料理』を毎食揃えることです。その5つとは、①主食(ごはん、パン、麺など)②主菜(肉・魚・卵・大豆などがメインのおかず)③副菜(野菜、いも、汁物などサブのおかず)④果物⑤乳製品です。この5つの料理

を揃えることによって5大栄養素の炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルなどをバランスよくとることができ、エネルギーやからだづくり、コンディショニングを整えるといった目的にあった栄養をとることができます。自分の朝・昼・夕食の食事を振り返ってみて、不足しているものはありませんか? はじめから、手の込んだ料理を考えるとではなく、朝食がパンだけなら、牛乳を飲んだり、ゆで卵やバナナを食べたり、ハム・チーズをパンにのせて食べたり、前の晩に残った野菜をつけたりなどでよいのです。できることから実行に移し、今より少しでもバランスのとれた食事ができるよう心がけましょう。

(財)広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター
管理栄養士 源内 徳子
(広島陸協 科学委員会 幹事)

「5つの料理」とは…

- ①主食(ごはん、パン、麺など)
- ②主菜(肉・魚・卵・大豆などがメインのおかず)
- ③副菜(野菜、いも、汁物などサブのおかず)
- ④果物
- ⑤乳製品



毎食「5つの料理」を揃えましょう!!

第13回全国都道府県対校男子駅伝

□大会を終えて

朝早くから降りしきる冷たい雨。競技運営にも選手のコンディショニングにも大きな不安がよぎる1月20日の早朝。にもかかわらず、午前8時過ぎから始まった競技役員全体会終了後の国際会議場には落ち着いた雰囲気があった。これは、過去12回、様々な課題を克服してきた競技役員達の自信のなせる業かと思われる。

12時30分、号砲が響き、一斉に高校生ランナーが平和公園をとびだした。準備の段階での課題は解決してきた。雨や雪に対する対応もシミュレーションできている。しかし、万全であるとはいえない。レースの流れに沿って対応すべきことはたくさんある。競技運営上のトラブルや選手のアクシデント。様々な思いをめぐらせながら、最後尾の競技運営本部車からレース前方を予測する。しかし、心配はいらなかった。選手は冷たい雨の中激走を見せた。コース全体の競技運営も滞ることはなかった。成すべきことを成せる力、日頃からの準備のたまものと再認識。

沿道整理に力を貸していただいた3千名をこえるコース整理員の方々、補助員の高校生、冷たい雨の中ありがとうございました。競技役員のみならず、冷たくなったからだにむち打ちながら本当にお疲れ様でした。車の中にとびこんでくる皆さんの姿に外の冷たさを感じ、申し訳なく思ながらも、感謝、感謝の第13回大会だった。

総務員 河野 裕二

第22回中国女子駅伝

□活躍の場

2月10日(日)、早春の安芸路で第22回中国女子駅伝競走大会が今年も華やかで晴れやかに、そして好天にも恵まれ開催された。初出場の日本ケミコンが1時間09分25秒という素晴らしい大会新記録で優勝し大会は幕を閉じた。

女性審判員の資質向上を目指し、「女性の駅伝大会を女性で運営しては」という川村前会長の計らいで、私たち女性による運営になるよう担当させて頂き17年が経過した。回を重ねる毎に女性らしさのある運営を心がけている。人員不足のため、全ての審判を女性でというわけにはいかず、中継所の審判を女性で担当し、走路審判を男性審判員にお願いしている。最初は本当に女性のみで出来るのか心配な面もあったが、男性の先生方に教えて頂き協力を得ながら、運営している。

昨年、一昨年と広島でレディース陸上が開催された。愛知から視察に来られた方が、「女性の審判員が自信をもって大会を動かしている」と好評だった。これも今まで中国女子駅伝で培ってきた成果だと思う。

この様な場を与えて頂いている事に感謝しながら、今後更に充実した大会を運営し続けることができるよう頑張っていきたい。

総務員 樽谷 和子

□大会を終えて

心配されていた雪を吹き飛ばし、絶好のコンディションの中、行われた中国女子駅伝競走大会。一般28チーム、郡市の部18チームと昨年を上回る参加数でいかに本大会が全国から大切に思っていたかを感じると共に、継続していくことの責任の重さを痛感した。

華やかなユニホームで、スタート前のグラウンドは、花が咲いたようだった。次々手を上げて紹介を受ける選手達の表情の美しいこと。明るい日差しに感謝しながらスタートした。結果は日本ケミコンが期待通りの走りをみせて2位を1分以上はなしてゴール。郡市の部では東広島陸協が圧倒的な強さを見せてくれた。今年度は初めての企画でレース中にキッズ駅伝が企画されたが、そのせいか観客も多く、小学生の走りにパワーをもらったという声も聞かれた。審判員・補助員の高校生の皆さんに感謝したい。

総務員 浜口 千枝



編集後記 JAAF HIROSHIMA 広陸協BLOG

前号からリニューアルした「陸協ひろしまニュース」。さまざまな反応がありました。おしゃれな広報誌で良い、選手の特集記事が面白い、文字が小さい、表紙のロゴにAmateurが入るのは時代にそぐわない等々。

皆様から頂いたご意見を参考に、このたび第2弾ができあがりました。他県の陸協の広報誌と比べてみてください。ユニークさは際立っていると思います。

以前から広島陸上競技協会には、登録会員のアイデアや新しい試みをどんどん取り入れ、型にはまらない運営で陸上競技を盛り上げていこうとする組織風土があります。多分そのような土壌があったからこそ、この広報誌も180度のリニューアルができたと思います。

年齢や性別、役職に関係なく、あらゆる面で一人一人を活かす開かれた陸協を目指しています。特に若い会員の皆様のご協力と参画をお願いします。(S)

New Hope キラリ Young Athlete 未来のナンバーワン!!

高木 綾女 (八本松中学校)

生年月日:平成4年7月15日

進路:鈴峯女子高校へ進学

ベスト記録/1500M 4'38"08

通信大会第6位、県中学選手権大会第3位、中国中学校女子駅伝第2位



中国女子駅伝では3区で郡市の部でトップに立つものの、2位との差はわずか7秒差であったが、4区高木で22秒さらに開けてくれ、アンカー福永(興譲館高校)にタスキを渡し優勝への足がかりをつくってくれた。もちろん他の選手のがんばりあっての結果であるが、終盤での彼女の区間賞の走りは大きかった。手脚のスラッとしたスタイルから昨年同区間を走った堤選手(現興譲館高校1年、全国中学校女子駅伝3区区間賞)と似たものを感じさせる。性格的には穏やかな感じを受けるが内に秘めた闘争心、負けず嫌いなところが頼もしい。

陸上に興味を持ったのは中学校に入る少し前ぐらいからだと言うが、東広島市のロードレース大会に小学校1年生から毎年参加し上位に入っていた。6年生の時は最初からトップに立ちそのまま大会記録で優勝してしまった。当時は水泳の方にも興味を持ち同様に力を付けていたという。中学へ入学してからは、男子陸上部が駅伝で黄金時代を正に築くときであり、多に彼女にも刺激を与えていたに違いない。最初の大会では1年の部の800Mに出場し2'33"で優勝しているものの、そんなにずば抜けているという結果ではなかった。その後「女子の方までそんなに面倒はみれんわい」といいながらも、番匠谷監督のきめ細かな指導のもとメキメキと力をつけていき、2年生から全国大会に参加できるまで

に伸びていった。駅伝の方でも男子の華々しい活躍にあって脚光を浴びなかったかもしれませんが、彼女は3年連続中国中学校女子駅伝では2位になる原動力となっている。しかし、彼女にとってはこの優勝できなかった3回の大会、特に最後の3年生の大会が、いろんな意味で中学校の陸上競技生活中で印象深い思い出となっている。

(鈴峯女子)高等学校に進学後は3,000Mや長い距離に挑戦して全国大会に出ることが目標で、将来は高橋尚子選手みたいになることである。中学校時代は走る量より、気持ちの面で成長できたようで、これからは本格的に長距離に取り組む第1歩を踏み出そうとしているところと言ってもいいだろう。好きな言葉が「あきらめないこと!」、彼女だからこれからの様々な試練も乗り越えていけるはず。中国女子駅伝では思わぬドリーム賞を頂いてビックリしていたようであるが、彼女の夢が少し膨らんだようです。

東広島市陸協女子駅伝 監督 渡部 亨